

茅ヶ崎市長候補

佐藤 光

市民を守る政治 防災都市 茅ヶ崎

1969年6月5日生 双子座 妻と双子の娘
十間坂コンドルスで少年野球に熱中し、現在の趣味は野球観戦。
衆議院議員河野洋平秘書・衆議院議員河野太郎秘書
1999年 神奈川県議会議員選挙において初当選（5期連続当選）
2017年 第110代神奈川県議会議員
2018年 茅ヶ崎市長就任（2期連続当選）



★詳しい内容は、
ホームページをご覧ください。



◎茅ヶ崎市長選挙の投票日は、11/1（日）です。期日前投票をご利用いただき、ぜひ佐藤 光にご投票ください。

これまでの主な取り組み

① 防災・安全「災害から市民の命と暮らしを守る」

市内32校すべての小中学校体育館にエアコンと非常用発電機を整備。簡易ベッド、パーティション、手洗い器、簡易トイレ、循環式お風呂などを配備し、避難生活の環境を強化しました。

民間企業等の2次避難所についても、職員配置や施設管理者との事前打ち合わせを進め、災害時の開設・運営の実効性を高めました。

千ノ川の拡幅、小出川整備に伴う橋の架け替え、下水道の耐震化など、地震や大雨に備えたインフラ整備を推進。高齢者や障がいのある方などの個別避難計画を、ケアマネジャーなど福祉の専門家と連携して作成しました。

また、総合体育館を福祉避難所に指定し、民間事業者との運営協定も締結。津波ハザードマップの全戸配布や避難訓練、ペット同行避難訓練、ペット防災手帳の作成にも取り組みました。

さらに、災害時のキャンピングカー無償貸与やキッチンカーによる炊き出しの協定を締結。SNS等の被害情報をAIで分析するシステムも導入し、官民・最新技術を活用した災害対応力を高めました。

② 次世代が健やかに育つまち「子育て世代を支え、子どもの可能性を広げる」

小児医療費助成を高校3年生まで拡大し、所得制限を撤廃。中学校給食の全校実施、産前・産後ヘルパー事業、保育の受け皿拡充などを進め、2年連続で待機児童ゼロを実現しました。

また、スポーツ・文化芸術活動への応援金制度など、子どもたちが多様な経験に挑戦できる環境を整えました。

③ 地域経済の底力を活かしたにぎわいのあるまち「茅ヶ崎の魅力を地域の活力へ」

2025年7月に「道の駅 湘南ちがさき」が開業。海岸エリアの魅力づくり、キッチンカー支援、市役所前広場の活用、文化・スポーツとの連携など、地域資源を活かしたにぎわいづくりを進めました。

④ 高齢者が健康で住み続けられるまち「健康長寿と地域での支え合いを推進」

フレイル予防や健康づくり、成年後見支援などを進めるとともに、生活や福祉の課題を抱える方を必要な支援につなぐ体制を強化しました。

⑤ 障がい者にやさしいまち「誰もが地域で安心して暮らせる環境へ」

バリアフリー環境の整備、特別支援学級の新設、医療的ケア児への支援、インクルーシブ公園の整備、基幹相談支援センターの設置などを進めました。

⑥ 新興感染症に強いまち「健康危機への対応力を強化」

茅ヶ崎市保健所の新庁舎整備を進めるとともに、感染症拡大時に専門職が迅速に支援できる体制を整備しました。

⑦ 地域の絆が強いまち「地域と行政が支え合う仕組みを」

コミュニティセンターの整備、公民連携推進デスクの設置、企業版ふるさと納税の活用、移動販売など、地域課題を市民・地域・企業とともに解決する取り組みを進めました。

⑧ スポーツに親しみ、熱狂するまち「スポーツを地域の力に」

総合体育館を改修し、エアコン、LED照明、バリアフリートイレ、非常用発電装置を整備。災害時には福祉避難所としても活用できる施設としました。

トップアスリートとの交流や、湘南ベルマーレ、ウォルガ湘南、アニージャ湘南など地域スポーツチームとの連携も進めました。

⑨ 脱炭素・持続可能なまち「将来世代により良い環境を」

公共施設への再生可能エネルギー導入など、ゼロカーボンシティに向けた取り組みを進め、環境負荷の低減と持続可能なまちづくりを推進しました。

① 災害に強い「防災都市」へ

「命を守るための備えを、さらに強く」

千ノ川の拡幅や下水道の耐震化など、災害に強いインフラ整備を着実に進めます。

大雨に備え、内水ハザードマップを想定最大規模の降雨に基づいて見直すとともに、土砂災害ハザードマップも最新の危険度調査に基づいて見直し、全戸への周知を進めます。

津波対策では、夜間・休日でも迅速に避難できるよう、津波浸水区域内の小中学校に感震解除キーボックスを設置します。国・県の最新の被害想定や各地の災害対応の検証を踏まえ、備蓄品や防災設備をさらに強化。消防体制の充実やAIを活用した災害情報の収集・発信も進めます。

さらに、地域コミュニティの担い手不足にも向き合い、市民・地域・企業・福祉関係者・行政が連携し、災害時に支え合える「共助」のまちをつくります。

マンションなどの共同住宅が増える中、災害時に住み慣れた自宅で過ごす「在宅避難」を支えるため、トイレなどの自己備蓄を促進するとともに、既存自治会との連携を強化し、共同住宅における地域防災力の向上を進めます。

② 茅ヶ崎らしい子育てを実現

「子どもたちの未来に、もっと可能性を」

地域企業、スポーツチーム、NPOなどとの連携を広げ、子どもたちが多様な経験を積める環境をつくります。

小学校の水泳授業への専門指導、プロアスリートとの交流、地域と連携した子どもの居場所づくり、公立保育園の再整備などを進めます。

③ 茅ヶ崎の強みを活かした地域経済

「地域で生まれた価値を、地域の力に」

「道の駅 湘南ちがさき」を起点に、農水産物など地域資源の活用を進めます。

6次産業化、スタートアップ支援、海岸エリアの魅力づくり、文化・スポーツとの連携、民間活力の導入などを進め、地域で生まれた価値が地域で循環する経済をつくります。

④ 健康長寿と安心の福祉

「誰もが自分らしく暮らせるまちへ」

フレイル予防や健康づくり、地域の見守りをさらに進めます。

介護・福祉人材の確保や障がいのある方への支援を充実させ、子どもから高齢者まで、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境をつくります。

⑤ 公共サービスを守り、便利な市役所へ

「持続可能な市政を実現」

AI・デジタル技術を活用した「行かない市役所」を進め、市民の利便性を高めます。

公共施設、道路、橋などの計画的な更新、省エネ・脱炭素化を進め、限られた財源と人材を有効に活用し、将来世代に責任をもった市政を進めます。

市民とともに、未来へ。
災害から命を守る。
子どもの未来を支える。
地域の仕事と活力をつくる。



これまでの実績をさらに
前へ進め、10年後、20年後も
安心して住み続けられる、
元気で活力のある茅ヶ崎を
市民の皆さまとともにつくります。